

# 北海道雪合戦連盟ルール・審判委員会合同会議 協議結果報告

日 時 平成22年9月4日(土)  
13:30-16:30  
会 場 北海道立総合体育センター  
きたえーる 小研修室①

## 1 出席委員

- ルール委員会：阿野委員長(胆振)、正木副委員長(道央)
- 審判委員会：藤木委員長(胆振)、渋谷副委員長(道北)
- 両委員会委員：田仁委員(胆振)、小林委員(胆振)、日戸委員(道央)、藤田委員(十勝)

## 2 会議の趣旨・考え方

会議開催にあたり、全員で次の事項について確認した。

\*\*\*\*\*

- ア) 本会議は、2009-10シーズンを振り返り、競技ルールや審判体制について総括し、次シーズン以降に向けた対策を検討することを目的とし、今後も継続して開催する。
- イ) 本年度はルール改正年ではないが、次回の改正に向け、毎年、課題の分析と検証を繰り返し、情報やデータを蓄積していくことが重要である。  
同様に、本会議では競技規則集の細かな文言整理等よりも、現在、雪合戦競技が抱えている構造的な問題に焦点を絞り、重点的に議論する。
- ウ) ルールは全国・世界共通であるため、昭和新山国際雪合戦などの特定の大会を想定した改正案ではなく、全国・世界でも理解しやすく、できる限り混乱や新たな負担が生じないような改正案とするよう配慮する。
- エ) 個々の選手のレベルでも様々な提案や議論がされているが、ルール改正はあくまでも日本雪合戦連盟及び加盟団体が担うこととなるため、選手の意見も参考にしたうえで、北海道雪合戦連盟が主体的にオール北海道としての公式見解をとりまとめ、今後の日本雪合戦連盟での改正案検討に対応していく。

\*\*\*\*\*

## 3 協議結果

【議題1】競技開始直後のセンターシェルター付近での混乱について

【意見要旨】

- いわゆる「ガチンコ勝負」は、雪合戦競技の魅力の一つであることは事実だが、全てを正確にジャッジするのはもはや不可能である。審判技術の向上や競技運営の工夫により適切なジャッジができることが望ましいが、すでにそれだけで解決できる問題ではなくなっている。
- 最初から正確な判定は無理だと思われることを前提としたルールのままでは、スポーツ競技として成立しなくなる恐れすらあり、極めて深刻な問題である。
- 対策として「ガチンコ勝負の禁止」、「センターシェルター付近へ入る人数の制限や時間の制限」、「先攻後攻制」なども考えられるが、基本的に誰にでもわかるシンプルなルールを目指すべきであり、明確かつ物理的な制限を加える方が望ましい。

- まずは、スタート時に持つ球数制限の改正やポジションごとの球数制限などによる防止効果、及び、センターシェルターを90cm幅にした場合に、競技の流れや戦術がどう変わるのかを優先的に検証する。なお、120cm幅等のシェルターについては、既存サイズではないため、検証は行わない。

#### 【議題2】コートサイズの統一について

##### 【意見要旨】

- 雪合戦の普及を考えれば統一することが望ましい。また、インドアでの大会や練習、レディース選手の肩などを考慮すれば、40mではなく36mコートで統一するのがベストと思われる。
- 36mコートに統一することを想定したうえで、現行の36mコートのシェルター配置が望ましいのか、第1シェルターと第2シェルターとの間は40mコート同様に6mを確保したほうがいいのか、あるいは中間の5m程度がいいのかについて検証する。

#### 【議題3】審判の基本的な立ち位置と向きについて

##### 【意見要旨】

- 審判がセンターライン側を向くことで球筋がわかるなどの効果がある半面、経験の浅い審判が試合の流れを目で追ってしまうなどのデメリットも想定される。
- 全国的には6名審判制が主流であり、6名であれば現行でやらざるをえない。
- 6名制と8名制で、その都度、立ち位置や向きを変えてしまうと、特に経験の浅い審判は混乱してしまうし、審判講習を行う上でも不都合が生じてしまう恐れがある。
- 基本的に6名制の場合は現行通りとし、2名増員して8名制にした場合に、その2人をどの位置にどの向きで配置するのが望ましいのかを検証する。

#### 【議題4】その他について

- フラッグ奪取を狙う選手の進路妨害に対する規定を明確にすべきと思われる。
- 昨年のルール制定委員会に、フライングによる警告対象を選手個人に改正する提案をし、却下されたが、今後も引き続き改正提案を日本連盟にしていきたい。
- 小規模なルール改正は毎年でも行うこと、ルールや審判の解説DVD制作についても、日本連盟に要望していきたい。

## 4 今後の検討について

本日は、2の考え方に立ち、想定される現実的な対策・改正案を抽出した。

今後、本日の改正案を柱として実戦形式による改正案の検証を行い、北海道雪合戦連盟としての公式見解をまとめていくこととした。

\*\*\*\*\*

#### ■ルール改正案検証会（主催：北海道雪合戦連盟ルール・審判委員会）

○日 時 平成22年10月24日（日） 10:00～16:00（予定）

○会 場 札幌市内または近郊を予定（未定）

○内 容 道内チーム・関係者の協力により、改正案に基づくデモゲーム等を複数回行い、そこで得られた参加者や各委員の意見、映像の分析などをもとに検証を行うこととする。